

令和3年度 第2回留萌市地域公共交通活性化協議会 議事録

1. 日 時 令和3年11月25日(木) 15:00～
2. 場 所 留萌市幸町1丁目 留萌市役所3階 3・4号会議室
3. 出席者 渡辺稔之会長、珍田亮子副会長、田下啓一監査、塚本壽三郎監査、
藤井信由委員、佐々木一弘委員、上原慎一郎委員、九笹英司委員、
松田順一委員、田中麻衣子
事業者 2名(株シン技術コンサル2名)
傍聴者 4名(報道機関3名、随行者1名)
事務局 3名(海野事務局長、大川事務局次長、加藤事務局員)
4. 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 題
 - ① 留萌市が抱える課題を裏付ける現況・実態調査結果について
 - ② 公共施設整備検討会議の検討状況について
 - (4) テーブル討議
テーマ1:「市内生活交通をより便利に、より持続可能なものにするためには」
テーマ2:「JR留萌本線の代替に必要な要件は」
 - (5) 全体討議
 - (6) その他
 - (7) 閉 会
5. 配布資料
 - ・次第
 - ・資料1-1 課題を裏付ける現況・実態調査結果について
 - ・資料1-2 AI運行バスについて
 - ・資料2 地域間交通の課題と対応
 - ・資料3 公共施設整備検討会議の検討状況

【会議概要】

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

▽渡辺稔之会長

本日は、大変ご多用の中、令和3年度第2回留萌市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。協議会の開催に先立ちまして、一言ごあいさつ申し上げます。

前回の活性化協議会にて、NTTドコモの担当者よりAI運行バスについてご紹介をさせていただきました。本システムについては、はこだて未来大の研究開発により実用化されたもので、本開発者であり、現在札幌市立大学学長である中島教授とお会いする機会があり、是非次回は留萌市と大学とで協力しながら、実証実験を進めたいとの話をさせていただいているところでございます。道内では、網走市や南幌町などでAIを取り入れたデマンド交通に着手し注目を浴びており、他の自治体においても導入に向けた実証実験を行う動きが活発化しているところでございます。

さて、本計画策定業務の委託事業者については、公募型プロポーザルにより、株式会社シン技術コンサルに決定し、第1回活性化協議会において計画策定までのスケジュールや調査の内容について提案をさせていただき、ご承認をいただきました。この間、市民・高校生アンケート、各公共交通機関での乗降調査などにおいて、留萌市の地域公共交通の現況を調査してきたところであり、本日はこの調査結果についてご報告させていただきたいと考えております。

また、本調査の結果から、留萌市が抱える公共交通に関する課題について認識し、テーブル討議という形で委員の皆様と意見交換を進め課題解決策を見出しながら、全体討議の中で意見の共有ができればと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

(3) 議 題

① 留萌市が抱える課題を裏付ける現況・実態調査結果について

▽(株)シン技術コンサル榊原氏・海野事務局長より説明

資料1-1 課題を裏付ける現況・実態調査結果について

資料1-2 AI運行バスについて

資料2 地域間交通の課題と対応

② 公共施設整備検討会議の検討状況について

▽海野事務局長より説明

資料3 公共施設整備検討会議の検討状況

意見・質問

意見・質問なし

(4) テーブル討議

テーマ1：「市内生活交通をより便利に、より持続可能なものにするためには」

テーマ2：「JR留萌本線の代替に必要な要件は」

※事前にグループ分けした2テーブルにて、上記2テーマについて協議

(5) 全体討議

テーマ1：「市内生活交通をより便利に、より持続可能なものにするためには」

○テーブル1からの発表

- ・バス事業者・タクシー事業者共同でAI運行が良いのではないかと感じる。利用者が必要に応じて車両を呼ぶことができるAI運行が課題解決に有効だと感じた
- ・現在の路線を増便するという事は、運転手が不足するなか対応することは難しい。そのためAI運行によるデマンド化が現実的ではないか
- ・現在自家用車を利用している人を公共交通の利用者とするのであれば、AI運行の導入を機にスタートラインを揃えるということもできる
- ・利用が多い朝は路線バス、日中はデマンドが良いと思う
- ・スマホでの予約について、高齢者は難しいため、コールセンター機能も必要だ
- ・新しい交通形態になれば利用者は乗り方を覚える必要があるため、情報提供が必要
- ・高齢者向けの乗車券などを配布すれば、利用者は増える
- ・免許返納を促進するのであれば特典が必要である
- ・バスの体験乗車のための無料チケットの配布と活用があれば利用者は増える

○テーブル2からの発表

- ・人口減少が進む中で今後、公共交通を維持していくためには、路線バスとデマンドバスを組み合わせさせて運行させていくのが良いのではないかと感じる。
- ・AI運行バスを実証運行させていくのであれば、その時間、路線バスの運行はストップさせて本格運行に近い形で行うのが良いと思う
- ・留萌市は比較的コンパクトに市街地がまとまっているため、AI運行だとしても大幅に遅れるというのは少ないと思う
- ・利用者を増やす効果的な方策としては、商工会等と連携したポイント付与等のサービスが有効

テーマ2：「JR留萌本線の代替に必要な要件は」

○テーブル1

- ・朝や夜の代替えについては、利用人数や効率を考えるとタクシー規模が現実的ではないかと感じる。利用が増えるようであればバスを使った運行もあり得る
- ・利用者としては、どんな交通形態でもよいので運行してもらいたい
- ・留萌旭川間の直行便については、買い物利用者が多いと思うので有効であると思う
- ・途中の乗降をなくすことで利便性は増すので、利用増も見込める

○テーブル2

- ・今のところニーズは少ないので、タクシーによる運行、予約型のデマンドタクシーでも十分ではないかと感じる

- ・留萌旭川間の直行便については、そこまでニーズはないのではないか

▽北海道運輸局旭川運輸支局 松田専門官からの講評

- ・地域公共交通の形に正解はないので、地域の実情に合ったあり方を検討すべき
- ・特に利用者の声を聴くということは重要
- ・すべてに平等になにかしらのサービスを入れなければいけないということはない。必要としている地域に必要な分だけ投入することが良い
- ・A I 運行についてはまずはやってみることかなと思う
- ・費用対効果については実証実験の際には必ず見なければならない
- ・様々な交通手段を持っているかと思うが、全てにどれくらいかかっているのかを把握することも大切。以降の市の費用負担を総合的に考える
- ・高齢者の声を聴くことも大切だが、若者が利用しやすいという点も考慮すべき。
⇒若者の流出防止にもつながる
- ・免許返納者だけではなく、免許未取得者への配慮も必要
- ・路線バスが一旦徹底すると戻すことは困難であるため、慎重に
- ・留萌旭川直行便については、現存路線である留萌旭川線との兼ね合いにも注意

(6) その他

▽大川事務局次長より公共交通市民意見交換会について情報提供

(7) 閉 会